

することやある程度示された予測可能性をさらに追求することである。目標1については、予算が取れるか否かを別にすれば、明確に現在の TOGA を延長して行きたいというグループが存在しており、科学的課題に関しては誰もそれほど問題にしていなかった。

問題は、目標2の方である。これに関しては、議論百出であった。確実に意味があると思われるのは、古気候の復元に基づく数十年から数百年の変動の解析である。この分野の最近の進歩は目を見張るものであり、少なくとも、年変化は分解出来そうである。それ以外になると、なかなか見当が付かない。15年のプロジェクトであるので、モニタリングで分かるのは、どんなに頑張っても十年程度の変動である。それでは、プロセス研究を中心にすえるのか？そのときは、ラブラドル海やウェデル海などの混合過程が中心になるのか、等等、限りない議論が続いた。とにかく、Sarachik と Gordon, Morinari が草案を書いて、次回の SSG で議

論することとした。

とにかく、目標2が、問題となろう。その意味でも現在の SSG の構成を見てみると面白いことに気づく。大気モデルから、L. Gate, L. Bengtsson の2人、TOGA グループから、D. Anderson, J. Shukula, P. Webster, A. Sumi の4人、古気候から J. C. Duplessy, そして、理論家として Sarachik, 海洋の観測家として Gordon, Morinari という具合である。海洋のモデラーが一人も入っていない。また、WOCE に積極的に参加している研究者も入ってきていない (WOCE-SSG の議長の A. Clarke に参加を要請したら断われたらしい)。このことが、目標2の内容を決めるときに問題になろう。

なにやら、すっきりしない会議であった。IAMAP の準備があるため最後の一日は出席できなかったが、今回は12月、マイアミで会議とのことである。

(東京大学気候システム研究センター)

オゾン研究会の御案内

秋季大会において、以下の要領によりオゾン研究会を行います。今回は、東北大学の福西研究室のオゾン研究の紹介を中心に置き、その他連絡事項、トピックの提供等を予定しています。多くの方の参加を期待しています。

記

1. 日 時：平成5年10月27日(水)(学会第2日目)
午後6時より
2. 場 所：学会会場内または会場周辺の施設
(現在未定)

3. 研究会内容

- (1) 研究講演「オゾン研究の現状と展望」

東北大学・理学部 福西 浩 教授

- (2) その他

研究会で一言述べたい方は、遠慮なく参加され発表してください。

オゾン研究連絡会世話人

川平浩二

TEL 0764-93-5416